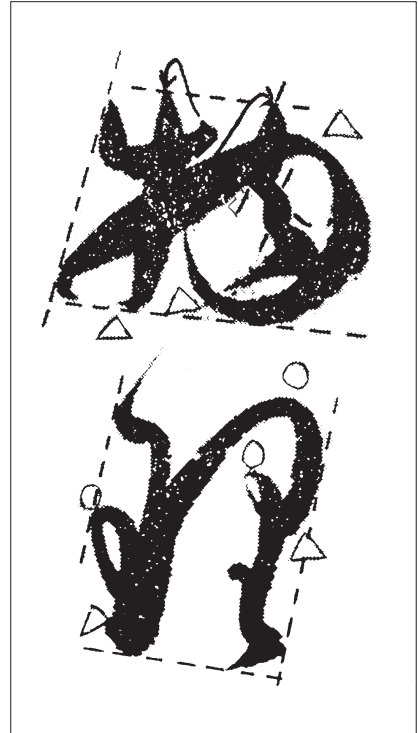


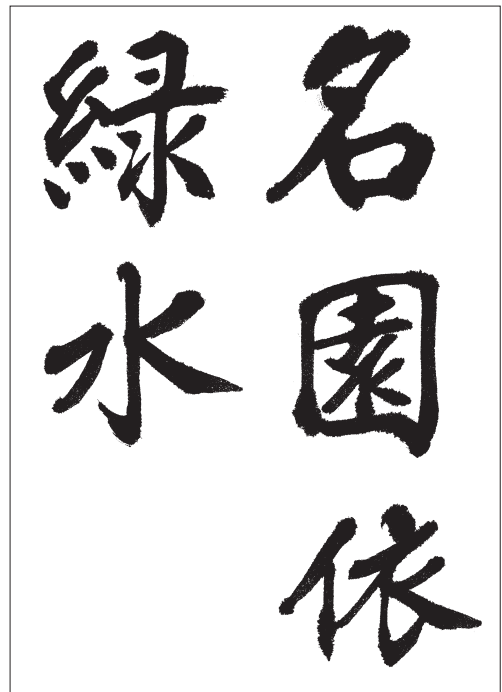
◆半紙一行たて書きに臨書して下さい。出品料430円

書譜 孫過庭



- 1、字句||物理
- 2、形式||半紙タテ使用。中央に「物理」と臨書し、左余白に落款「○○臨」と調和を工夫し書き入れる。
- 3、概観||書譜の筆遣いに「断筆」と「節筆」があります。「断筆」は王羲之の「七帖」(特に三井本十七帖)に顕著にみられ、十七帖を臨書されたことのある方は想像できるでしょう。但し、書譜における「断筆」は三井本十七帖ほど極端ではありませんが、あまり目立たぬように実によく使っています。草書は楷書に比べて起筆や転折が少ないために転折時で一旦筆を離し、改めて打ち込んで次の方向へ進む、これを「断筆」といいます。三井本十七帖のようにあまり「断筆」が多いと楷書みたいになり、流麗さを失ってしまいますが、時に応じて適当に「断筆」を使えば流れが引き締まり、筆勢を増すことができます。
- 4、各字のポイント
 物 書譜の特徴ある運筆がよく表出されている。起筆で押さえ込まず線の中央に押しつけてゆき△三ヶ所で筆を引き上げる。ここで筆の面の切り替えが行われる。すなわち表面から裏面、裏面から表面の変換。末筆は表面にて移動。
 理 「物」からの連綿を受け、「物」ほどの強弱の変化は見られないが、△で裏面、○で表面と繰り返しの運筆。行草ではこの運筆が大事ゆえ多習したい。

半紙課題(予告) (八月二十二日締切)

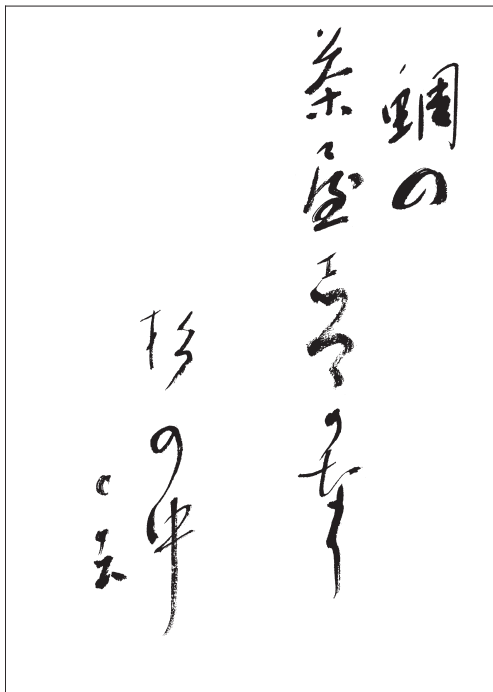


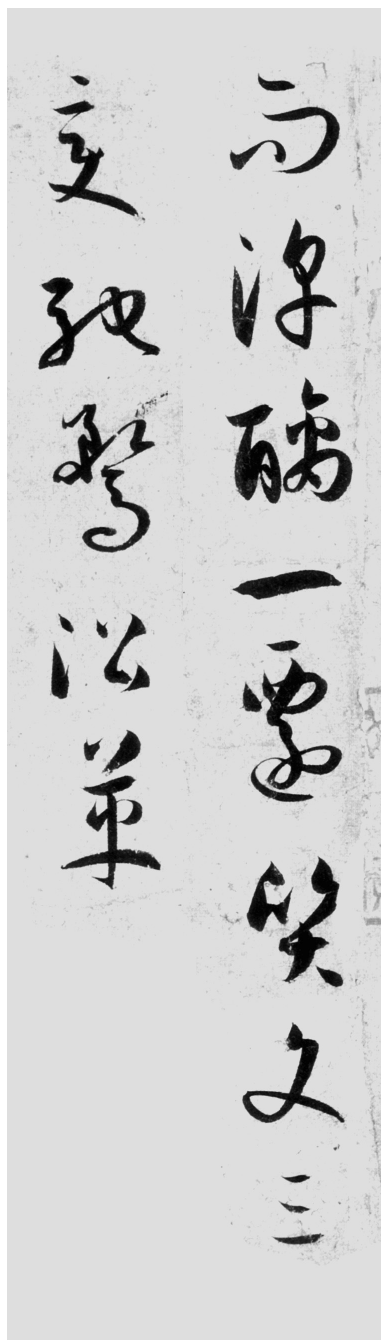
平岡華雪先生書 名園緑水に依り(杜甫)

訳：名だかい園は緑の川に臨んでおり

平岡華雪先生書

鯛うなぎの茶屋静かなり杉の中(子規)





而淳醜一遷。質文三變。馳驚沿革。

而れども淳醜一たび遷り、質文三変す。馳驚沿革は、(物理常に然り。)

時代と共に濃さが薄められるように、実用性を離れて美化されるという変化が起り、質朴さと艶美さは何度もその立場を入れ換えた。このように時代と共に変化することは、(必然的な道理であり、)

※随意部参考(半紙・条幅)としてもご活用下さい。抜粹可。

随意部半紙は無料。随意部条幅は一枚目無料、二枚目から五四〇円。

一字書 (七月二十二日締切)

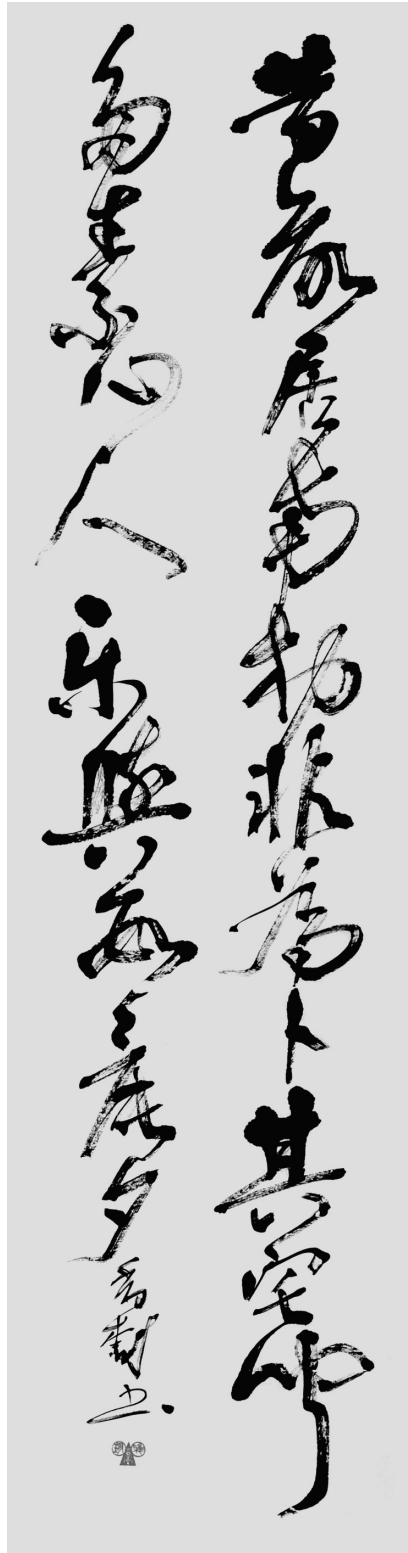
課題

蔵

- (1) 書体自由
- (2) 半紙タテ ※ヨコは中止
- (3) 落款は余白に調和を工夫し書き入れる
- (4) 出品料 四三〇円
- (5) バーコード券貼付 太枠内の臨昇の隣の空欄に
一字と記入 段級は無記入

A 高橋 香樹 会長 書

昔欲居南村 非爲卜其宅 聞多素心人 樂與數晨夕 (陶淵明)
昔南村に居らんと欲す、其の宅を卜する爲めにあらず。素心の人多きを聞き、与に晨夕をしばしばせんことを楽しむ。



B

鈴木 静村 先生 書

墨継ぎは「其」と「楽」で他はすべて連綿線にて繋ぎました。文字と文字は連綿線で繋ぎますが、逆に文字内は意連を用いています。連綿線については何回か書いていますが、連綿線を長くしないように工夫したい。行書が九字、草書が十一字。行書は一行目後半に多く、草書は二行目に多くなっています。いろいろと組み合わせている内にこのような形になりました。



兼毫?号使用。ねらいは次字から次字への脈絡。そのため草書体を従来より多く、流れの円滑化を図った。昔の書き方。村村の本字。為卜二字連綿。素心人 渴筆の墨の表われ参考に。楽 腰を平たく安定。與 大字に挟まれサラリと。晨 草書で変化。夕 末画点、突き出ても可。
訳：自分は前々から南村で暮らしたいと願っていた。それは別に吉凶をうらなって住居をきめたわけではない。そこには、純朴な人が多いと聞いていたので、しばしば朝夕を共に暮らすのを楽しみにしていた。

予告 (八月二十二日締切)

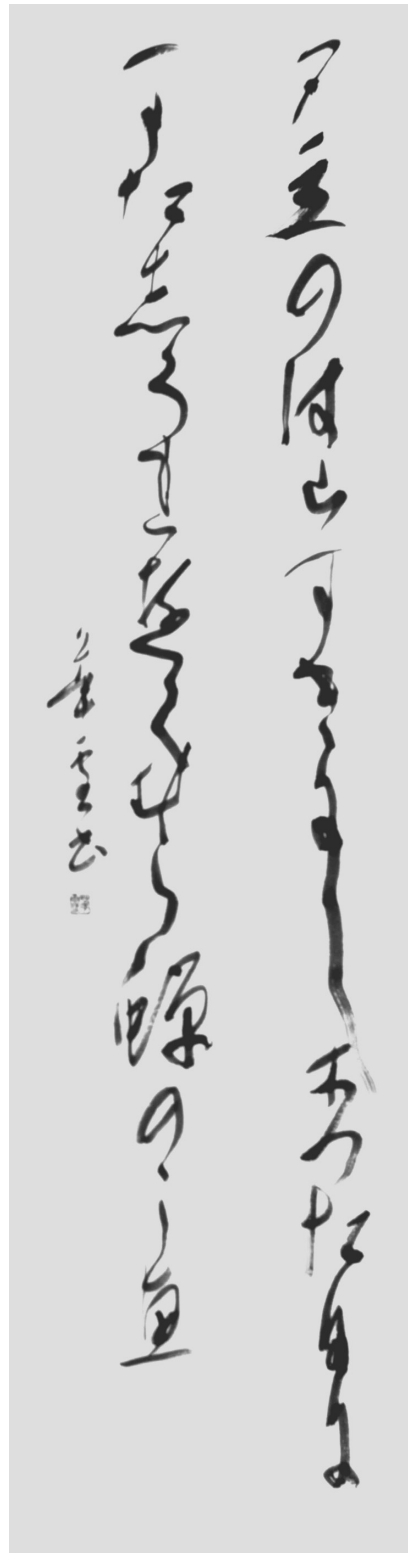
寂寞柴門空有舍 蕭條山寺靜無僧 (耶律楚材)

- ◆注意
- ・条幅部の出品は一人一点 (バーコード券の条漢を○で囲み(1)と記入する。)
- ・二枚目からの出品 (バーコード券の条漢を○で囲み()に何枚目か数字を記入する。出品料540円)

A

平岡華雪先生書

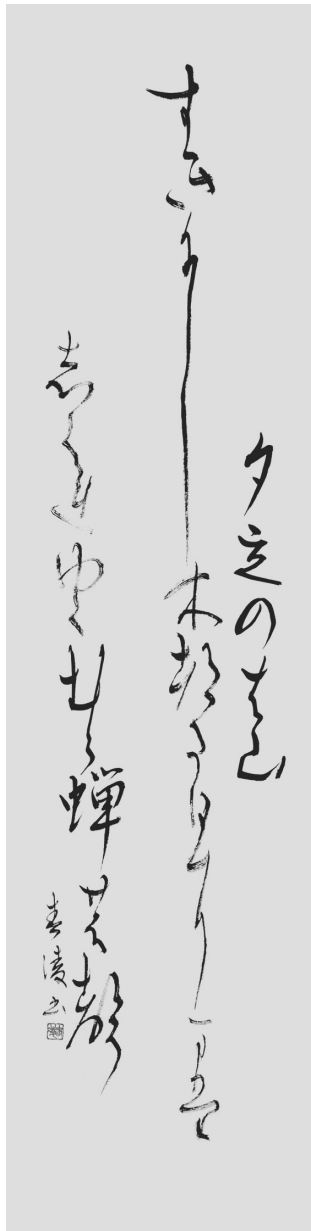
夕立のは山すぎにし木づたひにまたしぐれゆくむら蟬のこゑ (下河辺長流)
 夕立のは山すき^に爾^に木^につた日^に爾^に万^にた志^に久^に連^に遊^に久^にむら蟬のこ^ゑ



B

武井春凌先生書

夕立の者山すき^は爾^は木都多^は日耳^は万堂志^はく連^はゆくむら蟬農聲



学び方

かな作品にとって余白を美しく見せることも重要なポイントの一つです。今回は三行書きにしてみました。一行目は、五文字にして上下を余白にし、二行目は、「し」を長めにのびやかに書き、三行目は、「志く連ゆく」を渴筆にして「むら蟬」で墨を入れ、墨の潤渇の対比を意識しました。

予告 (八月二十二日締切) 深山木の茂れど奥の明るくて雉子の羽搏く音をききたり (若山喜志子)

下河辺長流 (ながる)
 (一六二七〜一六八六)
 江戸前期の国学者、歌人、大和の人。本姓は小崎、下河辺は母方の姓、名は共平、別号に長竜、通称は彦六。若くして歌道に通じ、木下長嘯子に師事する。特に万葉集に通じ、近世国学の先駆者。僧契沖と親交があり、その学問に多大の影響を与えた。

- ◆注意
- ・条幅部の出品は一人一点 (バーコード券の条かを○で囲み(1)と記入する。)
 - ・二枚目からの出品 (バーコード券の条かを○で囲み()に何枚目か数字を記入する。出品料540円)

酒井香雨先生書

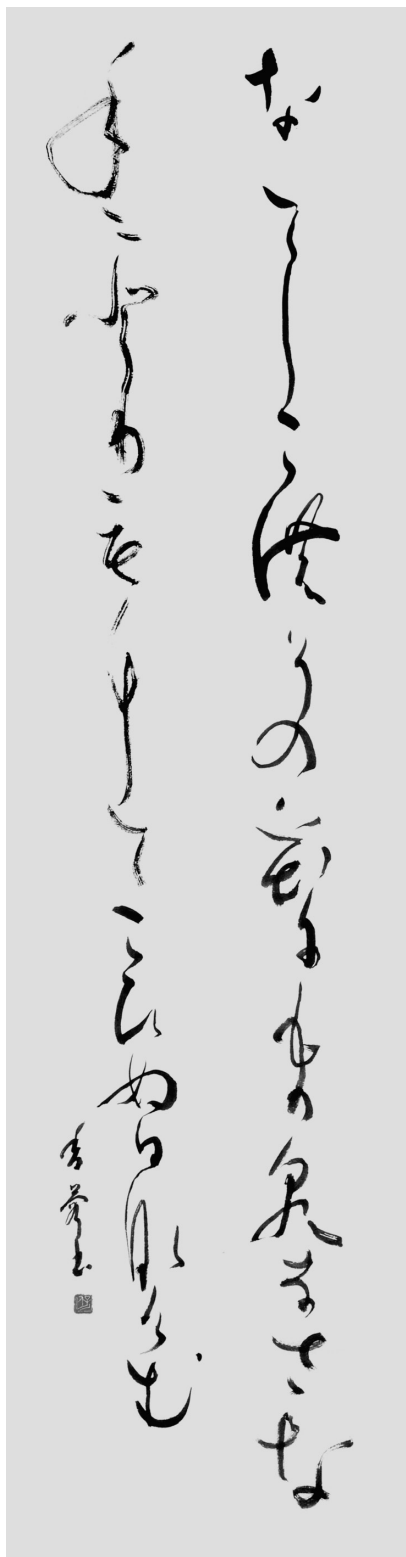
樓臺傍水時留影 竹樹臨風半有聲（曹申吉）
 樓台水に傍い時に影を留め、竹樹風に臨んで半声有り。



訳：たかどのは水に沿って建てられてあるから時にはその影を水に映す、竹は風を迎えるから声をなすのである。

川上香蓉先生書

石竹のその花にもが朝なさな手にとりもちてこひぬ日なけむ（万葉集 大伴家持）
 なてしこ濃曾の花尔も可朝奈さな手二登利毛千てこひぬ日那介む

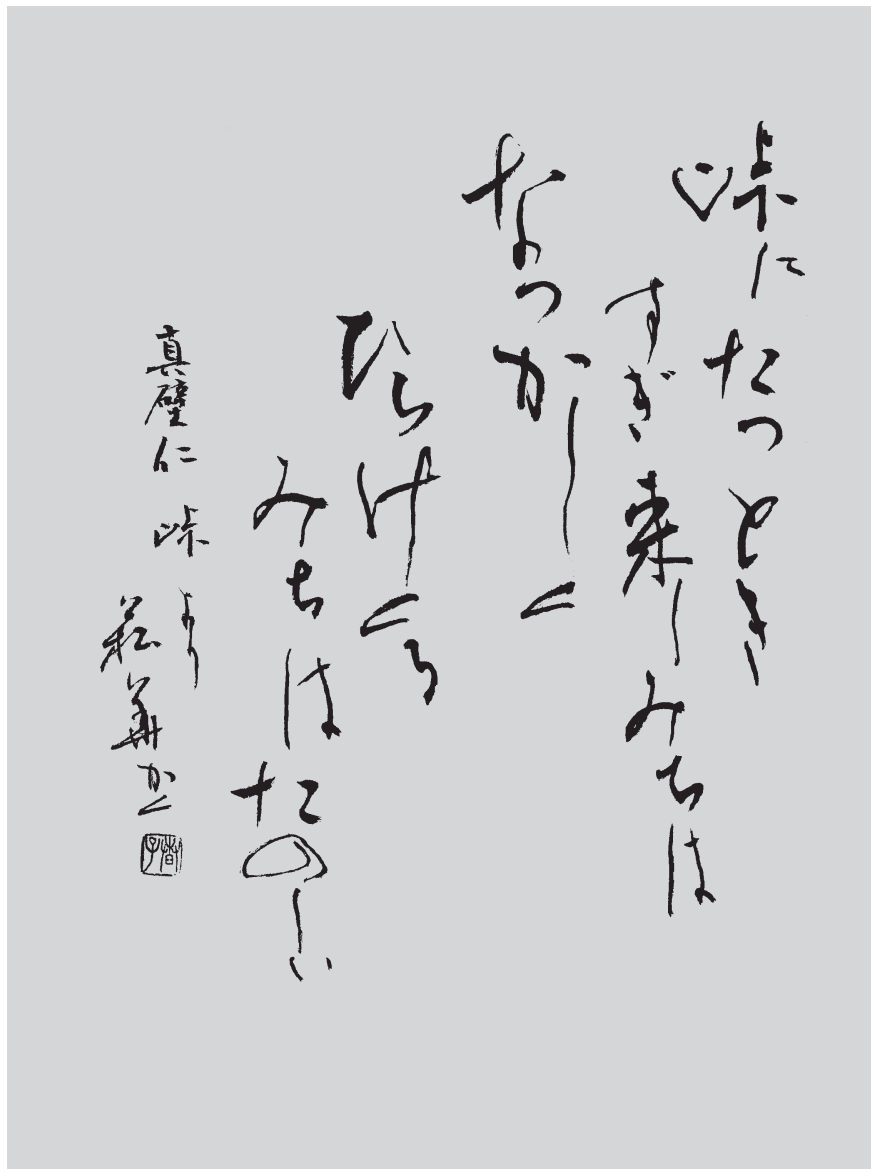


- ◆注意
- ・条幅部の出品は一人一点（バーコード券の条随を○で囲み（1）と記入する。）
 - ・二枚目からの出品（バーコード券の条随を○で囲み（ ）に何枚目か数字を記入する。出品料540円）

小暮 菘華 先生 書

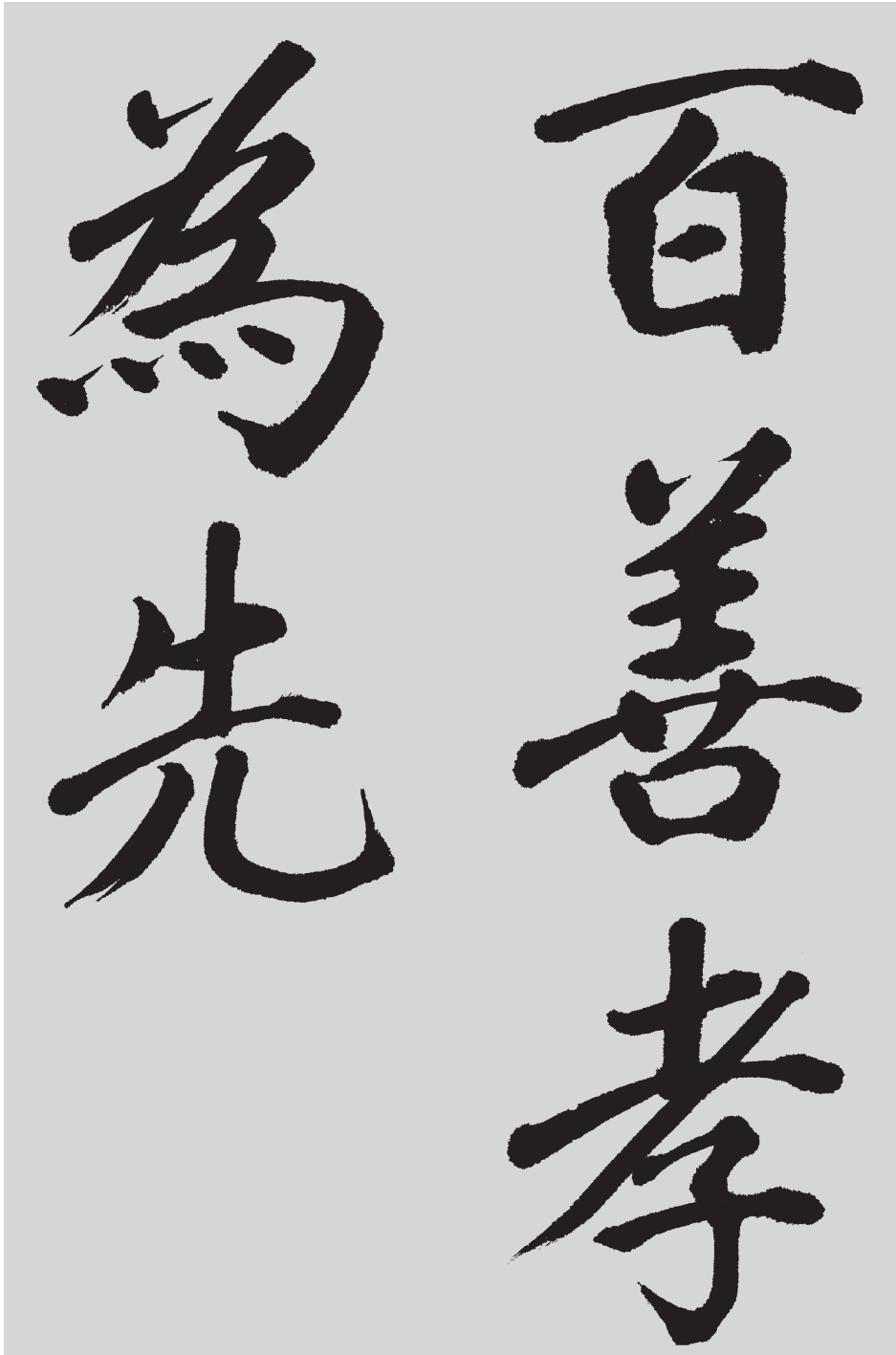
峠にたつとき
 すぎ来しみちはなつかしく
 ひらけるみちはたのしい
 真壁仁 「峠」より

この詩は中学校の教科書にも出ていた「峠」という詩の抜粋です。この詩に共感を覚え、十数年前、ささやかな個展を開いたときに書きました。年を経て再び又書きたくなり、新しい気持ちで書いてみました。そこで今回は、書きたいと思う言葉や気持ちを大事にし心の動きを素直に表現して下さい。
 漢字はたった二文字、あとはひらがな、しかも「峠」は古来の漢字ではなく、日本で生まれた字のよつで、辞書には見当りません。線質を工夫し、太細・潤濁・大小・余白等考えて自由に書いてみましょう。皆さんもそれぞれ過ぎ来し人生ふり返り、これからの人生を想像しながら書いて下さい。楽しいことを夢見て。



真壁仁 (一九〇七〜一九八四) 詩人、評論家、山形県出身。本名仁兵衛、尾崎喜八、高村光太郎らに師事。

- ◆注意…はじめて出品される方は私製の紙(3×4cm位)に次の4項目を記入して作品左下隅に貼って出品して下さい。出品料540円。
 ①バーコード券右空欄に漢かと記入 ②支部名または都道府県名 ③氏名または雅号 ④新



平岡華雪先生書

百善孝を先とす
訳：百善のうち孝が第一である。

〈各字のポイント〉
百・図示の接し方に留意
善・九成宮の形、「口」縮めて
孝・斜画、直接的に強く
為・古典に多い形、「連火」は軽快に上画に近く
先・脚の接し方注意、末画ハネ、古典は真上が多い

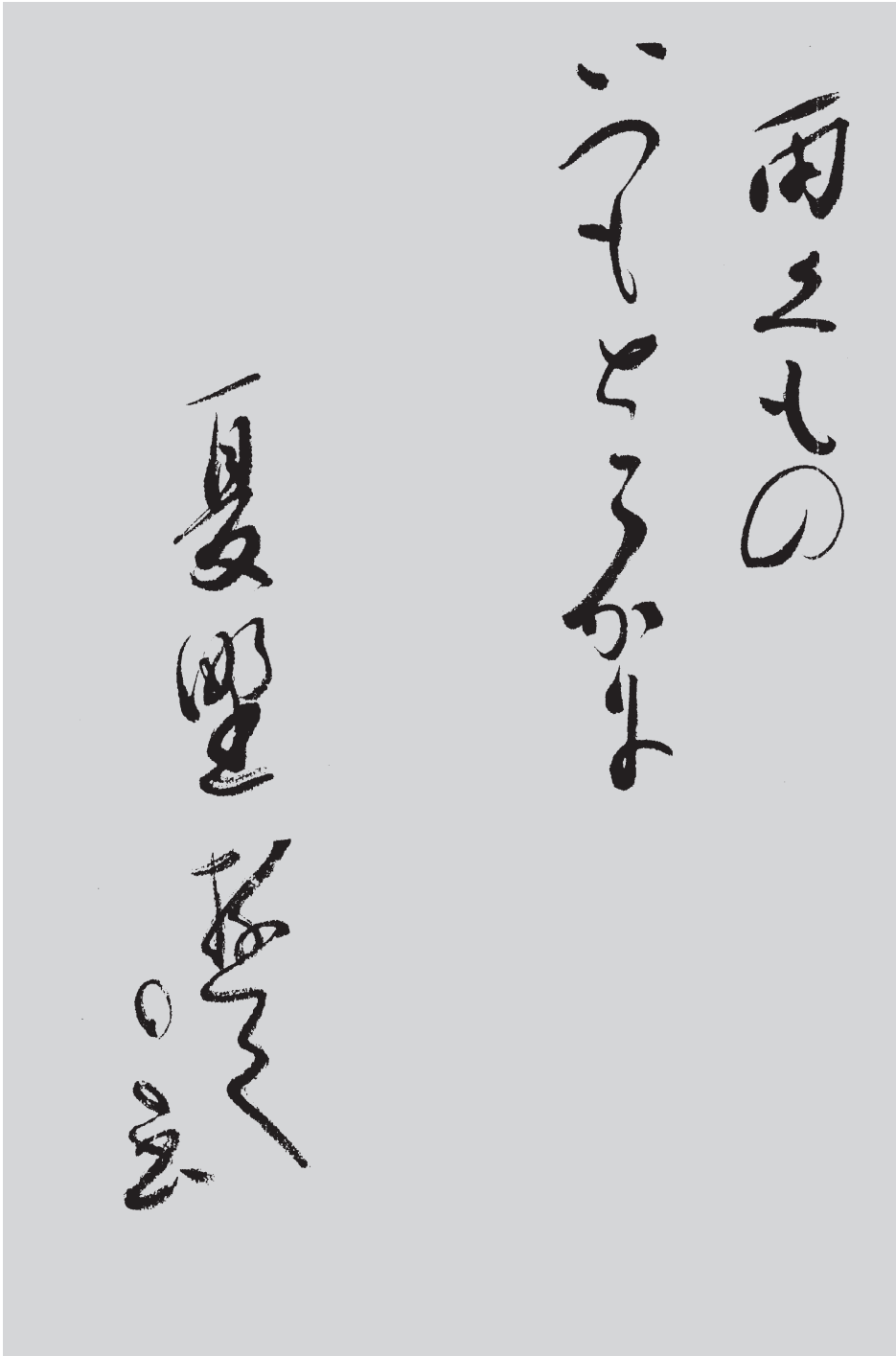


◆注意…はじめて出品される方は私製の紙（3×4 cm位）に次の4項目を記入して作品左下隅に貼って出品して下さい。会員は無料、会員外出品料は430円。

①漢字部 ②支部名または都道府県名 ③氏名または雅号 ④新会員は無料。

平岡華雪先生書

雨雲のいつもどこかに夏野ゆく(星野立子)
 雨久ものいつもどこか夏野遊久



〈主な観点〉

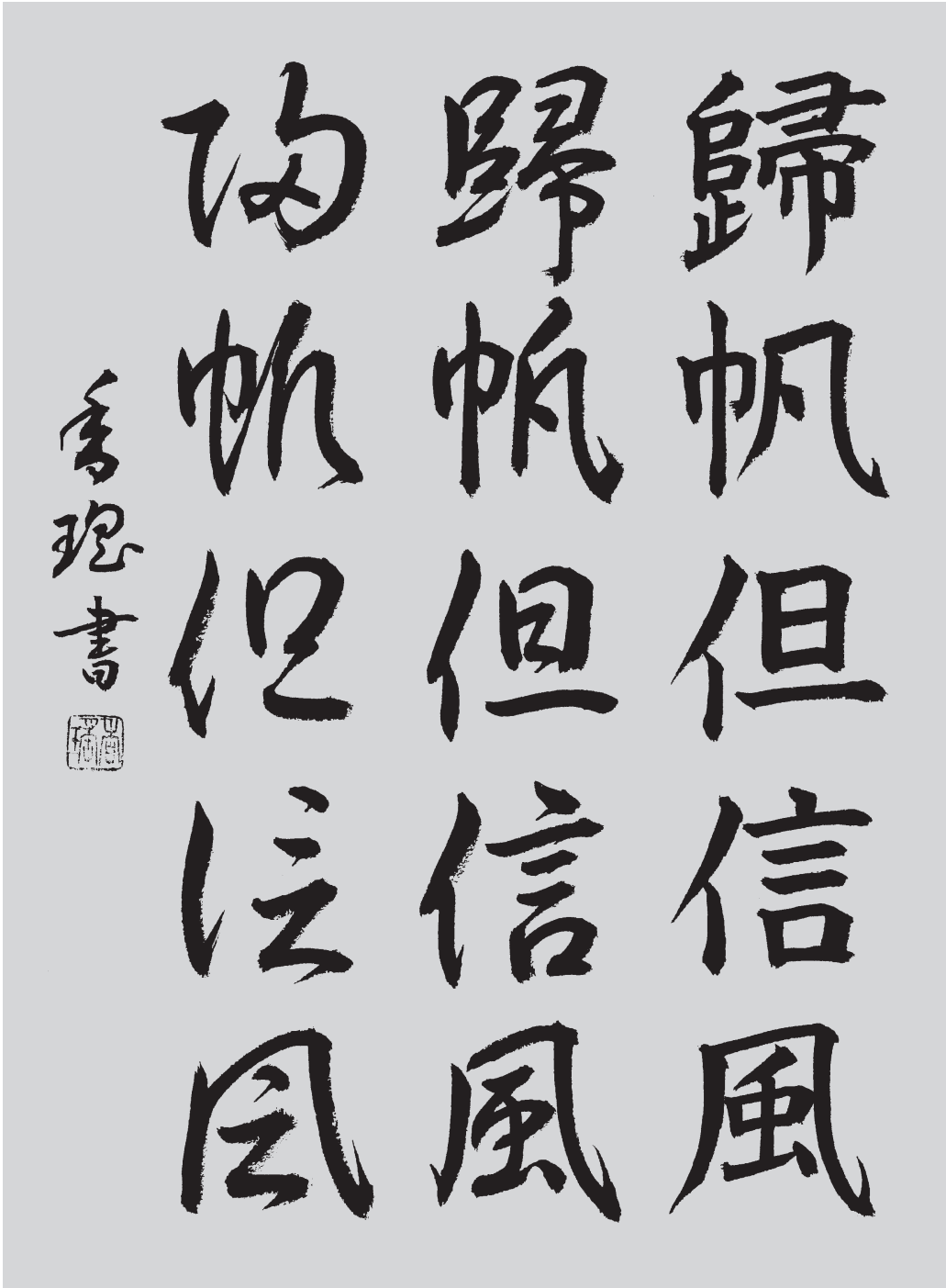
まず、上五の放ち書きがポイント。この四字の意連を円滑に用筆すること。「も」は古筆では点一つが多い。中七での強調が山場。「尔」一画目は点ではない。「耳」でも可。墨継ぎは「夏」。以下四字平板にならぬよう線に工夫のこと。「久」特にリズム的に収めたい。

◆注意…はじめて出品される方は私製の紙(3×4 cm位)に次の4項目を記入して作品左下隅に貼って出品して下さい。会員は無料、会員外出品料は430円。

①かな部 ②支部名または都道府県名 ③氏名または雅号 ④新会員は無料。

内藤香瑤先生書

歸帆但信風（王維）
歸帆は但だ風に信すのみ。



訳：帆を風任せにして帰っていく。

1. 随意部参考として出品してください。 2. 会員外の出品料は430円。

加藤洞雪先生書

門靜堪羅雀 書成不換鶯（朱之才）
門靜に雀を羅するに堪えたり、書成つて鶯に換えず。

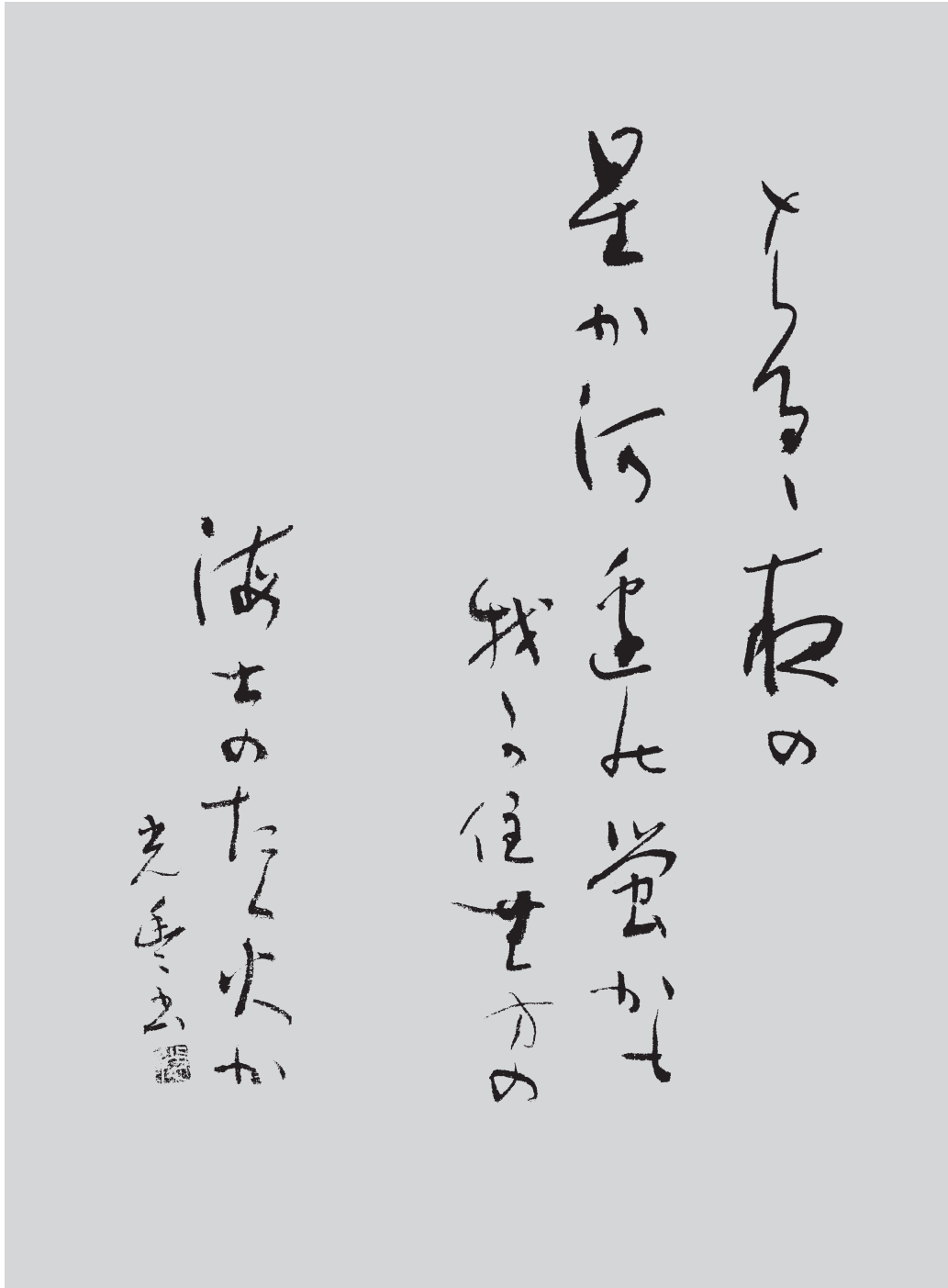
門靜堪羅雀
書成不換鶯
洞雪書

訳：門前は静かで雀を捕る網を張るによいほど寂しく、書は書いてしまったが王羲之の如く鶯鳥と交換はせぬ。

1. 随意部参考として出品してください。
2. 会員外の出品料は430円

絹
村
光
豊
先
生
書

晴るる夜の星か河への螢かもわがすむかたのあまのたく火か（伊勢物語 在原業平）
者る、夜の星か河邊能螢かも我可住無方の海士のたく火か



1. 随意部参考として出品してください。
2. 会員外の出品料は430円

湯澤春翠先生書

路川千曄先生書

課題 2 (初段階以下)

課題 1 (初段階以上)

祖母は螢をかきあつめて
 桃の実のように合せた掌の中から
 沢山な螢をくれるのだ。

教えるの語源は「愛しむ」。
 誰にも得手不手がある、
 絶対に見捨てない。
 絶対に見捨てない。

課題 1 (初段階以上)

教えるの語源は「愛しむ」。
 誰にも得手不手がある、
 絶対に見捨てない。
 絶対に見捨てない。

吉田松陰のことば

◆注意

- (1) 自分の段級に合った課題を選択。
- (2) ペンまたはボールペン(黒色)を使用のこと。青インクは不可。
- (3) 段級欄は本人が記入(色は黒)はじめて出品される方は私製の紙(3×4 cm位に)次の4項目を記入して作品左下隅に貼って出品して下さい。①硬筆部②支部名または都道府県名③氏名または雅号④新
- (5) 会員は無料・会員外は四三〇円

課題 2 (初段階以下)

祖母は螢をかきあつめて
 桃の実のように合せた掌の中から
 沢山な螢をくれるのだ。

「祖母」の一節 美好達治